



あいち Junior Red Cross 青少年赤十字

令和3年度・4年度 研究委嘱校 豊田市立中山小学校

人・もの・こととの関わり合いを通して、主体的に行動する児童の育成



考案したTシャツで行事に取り組む姿



地域講師と交流する姿



フェスティバルで活動する姿

目指す児童像

「人」「もの」「こと」
との関わり合いを通して **主体的に行動** する児童

仮説
1

サークル活動において

発信の場を意識した活動をしたり、地域講師とともに考えたりすることで、
地域への愛着を深め、気づき、考え、実行していくことができるだろう

手立て
①

ふれあいフェスティバルへの発信活動を意識できる場を継続的に設定する

手立て
②

地域講師と交流する場を設定する

仮説
2

委員会活動において

学校改善に向けた課題を見いだして自分事として捉え、解決に向けこだわりをもって関わり合えば、**学校への愛着を深め、気づき、考え、実行していくことができるだろう**

手立て
①

学校生活を見つめ直す場を設定する

手立て
②

こだわりディスカッションを行う



フェスティバルにのぞむ姿



仲間とディスカッションする姿



あいさつ運動をする姿

その後いくつかの震災や国際紛争、新型コロナウイルス感染症といった予想を越えた事態が、青少年を取り巻く世界に訪れてきました。きつとこれらの事態に直面した時にも、加盟校のみならずは青少年赤十字活動の視点から成長の機会を見出し、実践に結び付けてくださったことと思います。持続可能な世界の担い手としての青少年の育成に加盟校の実践が寄与することを願っています。

青少年赤十字の活動は、児童・生徒が赤十字の精神に基づき、世界平和と人類の福祉に貢献できるよう、実践目標に「健康安全」「奉仕」「国際理解・親善」を、主体性を育むための態度目標に「気づき」「考え」「実行する」を掲げています。平成七年一月十七日の阪神淡路大震災が記憶に残ります。神戸出身の教員が在籍しており、急遽帰郷しその状況を生徒に語った折りのことです。JRC委員会が主体となつて、義援金活動が大きく展開されました。先頭に立つ、委員の胸にも、全校生徒の胸にもJRCバッチが輝いており、身につけることから気づきから実行につながることを感じました。

私の青少年赤十字との出会いは、二校目に赴任した中学校での委員会活動として存在した「JRC委員会」が始まりです。全校生徒は、校則に従い胸の名札に校章とともにJRCバッチをつけ、JRC委員は一回り大きい赤十字をデザインしたバッチを誇らしく付けていたのです。教室にはアンリデュナン像が黒板の上に掲げられ、新入生は入会式で誓いの言葉を唱和します。それまで赤十字とは病院の地図記号か救急車のマークと誤って認識していた私は、改めて赤十字とは何か知りたいたいと思いました。



(名古屋市長東桜小学校)

橋本 新

青少年赤十字指導者協議会小中会長

JRCバッチを胸に

各地区の活動状況

尾張地区

六月二十日(火)に令和五年度尾張地区青少年赤十字加盟校総会並びに校長連絡会が清須市清洲市民センターにて開催され、本年度の役員や事業計画が承認されました。会では県支部より日本赤十字社の活動もご紹介いただきました。

今年度の主な活動は次の通りです。

○尾張地区トレセン

期日 七月二十五日(火)
二十六日(水)

会場 春日井市少年自然の家

加盟校の小学校六年生と中学校二年生の各二名が一泊二日に参加します。本年度は、小学校三十七校、中学校十三校が参加する予定です。

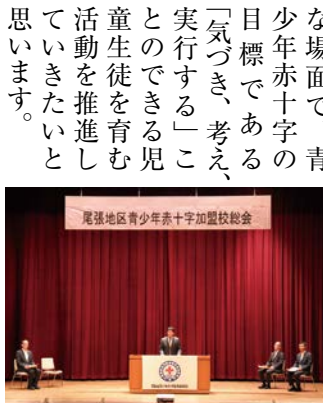
○発表交歓会並びに指導者研修会

期日 十二月二十七日(水)

会場 名古屋芸術大学アートスクエア
加盟校の児童生徒と指導者が参加します。本年度は、犬山市立犬山中学校と春日井市立篠原小学校が代表して活動紹介を発表する予定です。

尾張地区は、現在、幼・保を含めて百九十四校・園が加盟しています。今後も加盟促進と共に学校生活の様々な面で、青少年赤十字の目標である

「気づき、考え、実行する」ことのできる児童生徒を育む活動を推進していきたいと思



尾張地区総会並びに校長連絡会

知多・海部地区

令和四

年度は、ト

レセンは

中止しま

したが、十

二月には

「指導者講

習会・児童

生徒交歓

会」を実施

しました。

参加する指導者や児童生徒の人数を

縮小し、入場時に体温チェックや消毒を

するなど感染防止対策をしながら活動

しました。五年度は、さらに実施でき

る会を増やしていきたいと考えています。

○知多・海部地区青少年赤十字指導者

協議会総会

期日 五月二十四日(水)

会場 東海市芸術劇場

○知多・海部地区トレセン 一泊二日

期日 七月二十二日(土)

二十三日(日)

会場 愛知県美浜自然の家

○指導者研修会・児童生徒交歓会

期日 十二月二十五日(月)

会場 津島市文化会館

知多・海部地区の加盟校は、知多が

百十一校、海部が五十六校、合計百六

十七校です。各校それぞれで「気づ

き・考え・実行する」児童生徒を育成

するようさまざまな活動に取り組んで

います。



児童生徒交歓会の様子

東三河地区

東三河地区(豊橋・豊川・蒲郡・新城・設楽・田原)では、小学校四十六校、中学校十六校の合計六十二校が加盟しています。

それぞれの学校では特色のある活動や地域と連携した実践が日々行われています。児童会や生徒会が中心となつて進めるたてわり班(異学年で構成される班)による活動、あいさつ運動や清掃活動等、多種多様な活動が広がっています。また、ボランティア団体や外部講師を招いて人権や命にかかわる講話をしていただくなど、学校以外のつながりが強くなつてきている学校もあります。

二月には、各校の日々の実践が「青少年赤十字活動実践集」にまとめられます。

各校の思いや願いが込められた活動が他校へのよい刺激となることを願っています。

今後も「気づき・考え・実行する」ことのできる児童生徒を育む活動を推進していきます。



カワナナとりの様子

岡崎地区



トレセンワークショップの様子

五月十六日(火)、岡崎地区小中学校指導者協議会総会・研修会が開催され、本年度の役員や活動計画が承認されました。研修会では、愛知教育大学附属岡崎中学校副校長、手島英樹様より「リーダーシップと青少年赤十字」と題してご講演いただきました。

今年度の主な活動は次の通りです。

○地区トレセン

七月二十七日、二十八日(木・金)

市内全ての小中学校から各一名の参加で実施します。今年度は小中合同、日帰り日程を2日間行う予定です。

○「JRC岡崎だより」発行

総会・研修会、トレセンの様子のほか、各校での特色ある青少年赤十字活動を紹介します。

○「トレセン文集」発行

トレセンに参加した児童生徒の感想や各校に戻って取り組みたいことをまとめ、トレセン文集として発行します。

トレセンに参加した児童生徒の感想や各校に戻って取り組みたいことをまとめ、トレセン文集として発行します。

刈谷・安城地区



地区トレセンの様子

刈谷・安城地区（知立・高浜・碧南・西尾含む）では、小学校四十一校、中学校二十校、特別支援学校一校の合計六十二校、児童生徒数にすると三万六千四十一名が加盟しています。六月十六日（金）には、刈谷・安城地区青少年赤十字指導者協議会総会を開催しました。

○刈谷・安城地区トレセン

今年度は、碧南市の勤労青少年水上スポーツセンターと西端下区民館を会場とし、七月二十八日（金）に、小学生を対象に実施し、子どもたちに赤十字の重要性を啓発します。

○実践報告集の作成

地区活動の活性化を図るため、年度末に各校の特色ある活動を冊子にまとめ、今後の活動の参考にします。

豊田地区

豊田地区は、豊田市とみよし市すべての小中特別支援学校百十七校が加盟しています。各学校は、次の三つの活動を進めるとともに、学校独自の特色ある取組も積極的に行っています。

○地区トレセン

令和四年度は、八月と十二月に、日帰り二日間の研修会を予定していましたが、しかし、コロナウイルス感染症拡大の影響で、八月の研修は中止となり、十二月のみの開催となりました。一日の開催になってしまいました。参加した児童生徒が、各学校のリーダーという意識の中で、多くの学びを得る質の高い研修になりました。

○豊田市社会福祉大会

各加盟校の特色ある活動をボードにまとめて展示をし、青少年赤十字活動を広く市民に紹介しています。

○お年玉募金活動

昨年度は、百一万六千九百九十四円の募金を集めることができました。海外

の教育支援及び国内の豪雨災害、震災災害等への復興支援に役立てていただいています。



お年玉募金贈呈式の様子

高校部会

高校部会では、役員会・機関誌委員会を月に一度開催し、五月・十一月に開催されるメンバー連絡会及び二月に開催される活動発表会の企画・運営準備等を行っています。五月のメンバー連絡会では、グループワークを通して「ボランティア精神」について考え、ニーズに基づいたボランティア活動について考えるとともに、「多様性」をテーマにした機関誌を発行しました。二月に行われた活動発表会では、「名古屋市長桜台高等学校」「愛知県立高浜高等学校」「愛知県立瀬戸北総合高等学校」の三校が各校の特色あるボランティア活動について発表し、参加したメンバーが今後のボランティア活動の参考になりました。



「トレセンFW」の関所で学んだことの振り返りの様子

昨年十月・十一月に開催された「青少年赤十字創設百周年記念令和四年度国際交流事業」に代表メンバーがオンライン参加し、テーマである「気候変動」と未来と世界をまもる行動をとることに、海外メンバーと共に気候変動に対して自分達ができることについて考え、将来取り組みたいことについて共有することができました。

その他にも、「二泊三日のリーダーシップトレーニングセンター」「モンゴル国との国際交流事業」「本社主催スタディセンター」などへ参加し、多くのJRC高校生メンバーが様々な場面で活躍しています。

名古屋地区

名古屋地区小中学校指導者協議会では毎年地区トレセンや愛の年賀状活動等を行っています。令和四年度地区トレセンの日は、各学校をオンラインで結び避難所運営ゲームを行いました。二日目には車いす体験を行い、みんなのために自分たちができることを考えました。

○今年度名古屋地区トレセン

期日 八月九日（水）・十日（木）

会場 日本赤十字社愛知県支部

車いすを用いた福祉体験や避難所運営体験等の防災学習を行う予定です。

「気づき・考え・実行する」という態度目標のもと、進んでリーダーシップを発揮できる児童・生徒の育成を目指し、活動しています。



トレセンでの車いす体験の様子



これから続く 友情の塔の日の会

東海市立名和小学校

六年 武田 佑我

ぼくたちの学校には「友情の塔」という高さ五メートルほどの塔があります。これは、昭和三十四年九月二十六日、東海地方を襲った伊勢湾台風によって命を失った二十九名の名和小学校児童の慰霊の塔です。

毎年九月二十六日に友情の塔の日の会があります。まず、九月になったら、塔にお供えするプレゼントをクラスみんなで作ります。一年生から六年生まで、折り紙や紙粘土で一生懸命に作ります。

当日は、もくとうをしたり、伊勢湾台風を経験した方のお話を聞いたり、みんなで作ったプレゼントを塔にお供えしたりします。

ぼくは、伊勢湾台風で命を失った人たちを忘れないようにするためと、今のぼくたちががんばって生きていくことを考えるためにこの会を行なっていると思います。これからもずっとこの会を続けていきたいです。



大切な友情の塔

学校のみんなで 気づき考え実行する

豊橋市立荳原小学校

六年 天野 莉杏



「あしはライオン」による
全校への呼びかけの様子

荳原小は友達と仲良くできる元気で優しい子が多く、いつもにぎやかな雰囲気です。そんな学校で、私たちJRC委員会は「気づき考え実行する」をモットーに全校に呼びかけています。気づき考え実行したことをカードに書いて提出してもらい、放送で紹介したり、掲示板に貼ったりします。みんなのために行動できる子が増えてきているので嬉しいです。

また、「あしはライオンハッピールール」を全校に呼びかけています。みんなが気持ちよくすごせるよう、守るべきルールを話し合って決めました。みんなが心がけることで気持ちよい学校生活を送れるし、みんなハッピーになれるので、ぜひ守ってほしいです。

これからも、たくさんの子が気づき考え実行して、ハッピールールが守れるように活動をしていきます。

意見を共有する大切さ

岡崎市立河合中学校

三年 蒲野 恵葉

トレセンでは、リーダーシップについて学びました。その中で、印象に残った言葉があります。

「リーダーに必要な力は巻き込む力と巻き込まれる力だ。」

私は勝手に巻き込む力だけが重要だと思い込んでいました。しかし、巻き込まれる力があることによって、巻き込むことができることを初めて知りました。

さらに、私が影響を受けた時間は話し合いの時間です。私の班の子たちは次々に意見を出していました。私は、意見を聞かれないと発言をすることができませんでした。しかし、発言をしていく中で自然と発言ができるようになっていきました。意見を共有していく中で、友達との仲を深めることができていくことに気がきました。

私はトレセンに参加して、自分の考えを言ったり、聞いたりすることで自分の考えがまとまり、よりよい答えを出すことができました。

できると知りました。ここで学んだことをこれからの学校生活に生かしていきたいです。



話し合いの時間

創立七十五周年記念 エコキャップアートの作成

刈谷市立依佐美中学校

教諭 亀島 裕貴

本校では、常時活動としてエコキャップ回収を行っています。このことで寄付されるワクチンによる支援に学校全体で取り組むため、JRC委員会が中心となり、日々全員参加を目指して呼びかけを行っています。

本校は、昨年創立七十五周年を迎えました。その記念行事の一環として、エコキャップ回収と何かを関連付けて行うことはできないかと考えました。そこで、キャップ回収を促進しつつ、全校で一体となって作り上げる喜びを味わいたいと考え、「創立七十五周年記念エコキャップアート」を制作することにしました。各クラスで三、四枚のパネルに各自持参したキャップをはめていき、アートの制作を進めつつ、キャップ回収活動への参加率も増やすことができました。

生徒たちは、完成したエコキャップアートの前で足を止め、歓声を上げている姿も見られました。まるで、自分たちで作上げた達成感を味わっているようでした。



完成したエコキャップアート

あいさつ運動とJRC

豊田市立平和小学校

教諭 鈴木 雄大

四月。新六年生が、これまでのあいさつ運動を引き継ぎ、朝の昇降口に立つようになりました。はじめは、なかなか声が出せなかったり、一人で声をかけに行くことができなかったりする人もいました。

そんな中、代表委員会を中心とした児童が、活動の中で気づいたことを六年生全体に知らせたところ、六年生の挨拶が変わっていききました。さらに、挨拶ができる通学団を放送で発表する活動に工夫を広げていききました。また、毎日続けることで、まずは、六年生が笑顔で自然に挨拶できるようになってきました。自分から挨拶する下級生も増えていききました。

この広がりには、まさにJRCの「気づき・考え・実行する」に通じるものだと思います。今後はさらに、JRC活動を意識させながらこの良さを広げていきたいと思っています。



あいさつ運動の様子

できることをできる範囲で

愛知県立高浜高等学校

教諭 神谷 安有美



文化祭での募金活動

八年前、全国の高校生メンバーが集まるスタディーセンターに初めて指導者として参加をしました。メンバーの企画で、震災被災地のメンバーへ質問を行う時間がありました。「避難所で高校生ができることは何ですか？」東北から離れた地の高校生には最もな質問でした。「親はボランティアに行くことを反対しました。」これが被災地のメンバーの答えでした。被災後に、さらに大変な思いをさせたくない、危険にさらしたくない、子どもにはそばにいて欲しいという家族の思いをそのメンバーは伝えてくれました。

本校のボランティア部員は、いつもスーパーマン精神で突き進んでいきがちです。その勢いは応援したいのですが、「自分たちができることをできる範囲で」とプレキをかけることがあります。最善の活動のためのきつかけを私はJRCのメンバーからいつも学んでいます。

みんなのために 自分のために

名古屋市立正保小学校

教諭 鈴木 さやか

「テレホンカードを集めて、病気で苦しむ子にワクチンを送りたいです。」二十年以上前、六年生だった私たちの提案に、担任の先生はにっこりと笑って、「いいじゃん！やりやー！」

と即答し、あつという間に実現させてくれました。ポスターを描き、放送で全校に呼び掛けると、各家庭からのすごい量のカードが集まりました。子どもでも自分でも、世の中の役に立てるんだという感動と興奮を今も覚えています。母校のJRCの合言葉は「みんなのために自分のために」でした。誰かのために気づき、考え、実行することが、自分にとっても財産となっていくことを実感しました。

時がたち、自分も教員になり、恩師との再会が叶いました。「またJRCやろうよ！」との誘いに、今後は私が、「いいですね！」

と即答しました。これからは、自分が子どもたちを支える立場として、「子どものために自分のために」を合言葉に、JRCと関わっていききたいと思っています。



思い出のアルバムより

あったかあいさつ運動を通して

一宮市立西成東部中学校

三年 熊崎 杏瞳

人と人のつながりを大切にしたい。西成東部中学校ではあいさつ運動を行っています。あいさつは、お互いの心を近づける大切なコミュニケーション方法です。友達と話すきっかけを作ったり、学校全体をあいさつあふれるあたたかい居場所にしたりたいするために、生徒議会で意見を出し合い「あったかあいさつ運動」を企画しました。

この運動では、①自分から②元気に大きな声で③相手の目をみて、をあいさつのポイントとして設定しました。そしてこの三つを意識してあいさつのできた生徒が十五人以上のクラスに雪だるまパズルを配付し、あいさつ運動への参加状況の「見える化」を図りました。「あったかあいさつ運動」を通して、登校時やクラス内であいさつの声が増えて、明るく気持ちの良い一日のスタートが切れるようになりました。「おはようございます。」たった一言ですが、人と人をつなぐ、大切な言葉だと思っています。

今後もあいさつで活気あふれる学校を目指していきたいと思っています。



見える化した雪だるま

加盟校だより

豊田市立高嶺小学校

本校では総合的な学習や委員会の時間などを使ってSDGsについて調べたり、自分ができることを考えたりしています。この取組をJRC委員や学習している一部の児童だけではなく、全児童と家庭に広めるために令和四年度の夏休みにPTAと連携した「夏休み みんなでSDGs」と題して全家庭で取り組んでもらいました。

SDGs全十七項目の中から各家庭で自由に実践してもらいました。様々な目標の中から生活に密着した取り組みが多く「安全な水」「省エネ」「住み続けられるまち」「作る責任使う責任」「海の豊かさを守る」が多く実践されました。

具体的には「ごみを分別する」「牛乳パックや着られなくなった服はリサイクルする」「買い物はエコバックで」「食べ残さない」「食べる分だけを意図する」「野菜の使わない部分をベットの餌に活用」など多くの家庭で実践されていました。また「海のごみを拾う」や「プラスチック製品を減らし紙製の物を使用する」「電気の無駄使いを無くす」「エアコンの設定温度を高くする」など、エネルギーに対する取り組みも見られました。今後もSDGsに限らずJRC「気づき考え行動する」活動を家庭に広げたいです。
(畔柳 杉野)



海でゴミ拾い

愛知県立豊田東高等学校



コロナ禍での献血の呼びかけ

本校では、JRC部を中心に、障がい者支援施設やコミュニティづくりを進める地域団体との連携活動、

街頭での献血の呼びかけなど、さまざまなボランティア活動を行っています。総合学科である本校は、地域連携教育を教育活動の柱の一つとしており、JRC部以外の生徒も日頃の学習や部活動での学びを活かす場として、ボランティア活動に参加しています。

令和二年度以降は、コロナ禍の中、従来行ってきた活動は次々に中止となりました。しかし、それまで培ってきた地域との繋がりに支えられ、生徒たちは「コロナだからできない、ではなくて、コロナだけれど、こうすればできる」を合言葉に、新たな活動を企画し、感染対策を考え、実行していきました。このような時だからこそ人と人、人と地域とのつながりの意義に気づき、地域の一員として、そのつながりに携わることができました。

今年度はようやくコロナ禍の規制が緩和され、活動も以前に戻りつつあります。コロナ禍だったからこそ気づくことができた学びを、今後に生かしていきたいと思っています。
(前田 洋子)

名古屋市長年小学校

「気づき」「考え」「実行する」。このような子どもたちの態度を育成するために、本校では、日頃から取り組むことが出来る活動に力を入れています。それは「あいさつ運動」です。四、六年生の代表委員が中心となって、月に一度、子どもたちのアイデアを生かしたあいさつに取り組んでいます。

「あいさつしない子はうつむいてるよ。」「目線を上げてほしいよね。」「なら、ハイタッチするのよ。」「なら？」「手を合わせたくない子もいるから、手形の紙にタッチできるということも。」

子どもたちの目線で、子どもたちなりに工夫した「あいさつ運動」は大好評で、朝、子どもたちの元気な「おはようございます。」が響き渡るようになってきています。教師主導の活動では見られない子どもたちの姿に驚いています。

一つの活動に継続的に取り組み、その内容について、自分たちで話し合っていく経験を重ねること、で、「気づき」「考え」「実行する」「態度を育成できた」と考えています。
(今城 英康)



目線も上がって、にっこりあいさつ！

稲沢市立平和中学校



平中ボランティア隊の様子

本校では、「地域との連携を生かした学校づくり」として、地域に貢献するボランティア活動に積極的に取り組んでいます。地域行事へのボランティア参加だけでなく、校内で独自にボランティア活動を企画し、生徒会執行部が呼びかけを行い、実施しています。昨年度は、「平中ボランティア隊」を結成し、学校周辺の清掃や出身小学校での奉仕作業を行いました。奉仕の精神や地域の一員としての自覚を高めることができました。

今年度は、生徒会スローガン「ピースサイン」広がる広げるHEIWAの輪」を掲げ、地域にもピース（平和・笑顔）を広げようと、様々な視点から自分たちにできることを考えています。清掃による奉仕だけでなく、「小学生の下の校の見守りにも取り組みたい」と安全への意識も高め、活動の幅を広げようとしています。

今後も、生徒自身が「気づき・考え・実行する」ことを意識し、生徒主体となる活動に取り組んでいきます。

(足立 友里)

愛西市立市江小学校



挨拶運動の様子

市江小では、「①命を大切に．．．⑤知恵をはたらかせる．．．⑥笑顔で生活する」の三つの「いちえ」を目ざす子どもの姿としていま

す。昨年度は、ウクライナから避難してきた方をお招きしてお話を聞く機会を設けました。その後、ウクライナの方々のために募金を集めようという声が子どもたちからあがりました。「できるだけ多くのお金を集めたい」「そのためにできることは何か」と児童会を中心とした六年生が知恵を出し合い、ウクライナの現状や風景、文化などを伝える資料を作り、全校児童に向けて募金の説明会を開きました。「ウクライナの方々に笑顔を」という思いで取り組んだこの募金活動は、たくさんの児童の協力を得て、大成功に終わりました。命の大切さを考え、知恵をはたかせて行動したことが、よい結果に結びつきました。

また、毎年取り組んでいる挨拶運動では、曜日ごとに違う国の挨拶を取り入れました。この挨拶運動も、中国語やロシア語を母語とする児童とコミュニケーションをとりたいという児童の声がきっかけとなりました。いろいろな国の挨拶が飛び交い、明るく楽しい素敵な取組となりました。

これからも子どもたちの意見を大切にしたいと思っています。
(神谷 英加)

蒲郡市立蒲郡東部小学校

本校のJRC委員が最も力を入れて活動したのは、エコキャップの回収です。年度初めの勉強会で「私たちの活動で世界を健康にする」という活動目標を作った子どもたちは、自分たちができる活動は何かを考え始めました。そして、今まで、何となく行っていたエコキャップの回収が、困っている人にワクチンを贈るための活動であることに気づくと、活動に協力してくれる子を増やすために、給食中の校内放送でエコキャップ回収の意味を説明したり、ポスターを作ったりと、進んで活動していました。

集まったエコキャップを数える時には「このエコキャップのおかげでワクチンが贈れるんだね」「ワクチンで困っている人が助かるといいね」といううれしそうな声が上がっていました。子どもたちの活動の成果もあり、約三十人分のワクチンを寄付することができました。活動を終えた子どもたちの満足そうな表情が、忘れられません。

(鳥居 潤二)



エコキャップの集計

岡崎市立細川小学校



エコキャップ集めの呼びかけをする児童

本校では、福祉委員会が中心となつて全校でエコキャップ集めの活動をしています。世界では、ワクチンがないことが原因で亡くなっている子どもたちがいることや、ペットボトルのキャップを集めることで救える命があることを知り、それを全校に広めていきたいと考えました。

たくさんの人に協力してもらえように、ペットボトルキャップがリサイクルされてから、ワクチンを必要とする子どもたちへワクチンが届くまでの過程を、ポスターや動画を作つて紹介しました。

また、昨年度からは、各回収場所に福祉委員の児童が立ち、協力を呼び掛ける活動も行いました。大きな袋を抱えて来てくれる児童もあり、自分たちができることをしたい、救える命を救いたいという気持ち全校に広がっています。

今後は、エコキャップ集めのほかに、一円玉募金や被災地への義援金などにも目を向けて、困っている人や周りのためになる活動に取り組み、「気づき・考え・実行する」ことができる児童の育成を目指していきたいと考えています。
(松原 愛)

安城市立丈山小学校

本校では、一・六年生、二・四年生、三・五年生がペアを組み、一年間を通して交流をしています。異学年交流活動を行うことで、仲間意識を高め、思いやりの心を育てること、交流の計画を立てて役割分担を行い、自主的・実践的に取り組む力を養うことを目標としています。活動の中には、高学年がペアレクリエーションを考えるペア交流もあり、楽しんでいます。

二・四年生ペアでは、四年生がレクリエーションを企画しました。それを楽しんだ二年生は、ペアのお兄さん、お姉さんにお返しがしたいという思いをもち、自分たちで四年生のためにレクを企画しました。二年生は、どんな遊びをしたら四年生が喜ぶかを考え、一生懸命に準備をしました。レク当日は、四年生も二年生の思いをくんで、楽しむ姿が見られました。(日下 里奈)



ペアレクでのじゃんけん列車



タブレットの活用



課題の明確化

犬山市立羽黒小学校



絵グラフによる算数学習



英語でコミュニケーション

令和3年度・令和4年度 研究委嘱校 犬山市立羽黒小学校
 自ら考え表現し、自己肯定感を高める子の育成
 一つなぎ合い 高め合う 羽黒の子

支部通信

四月十八日「名古屋市公会堂」で、令和五年度愛知県青少年赤十字指導者協議会役員会・総会・研究推進校実践発表会が開かれました。

総会では、議事に先立って表彰式が行われ、五十七名の先生方と百二十二の学校と園が表彰されました。

総会に引き続いて、令和三・四年度の研究推進校であった「豊田市立中山小学校」と「犬山市立羽黒小学校」が実践発表を行いました。

日本赤十字社愛知県支部では、青少年赤十字活動のさらなる充実・推進と未加盟校への活動普及を目的に、研究推進校を設置しています。研究は二か年の委嘱期間で実施され、二年目に研究成果の発表を行います。参加者された先生方は、両校の研究実践に熱心に聞き入っていました。両校の研究要項を全加盟校に配付させていただきました。



令和五年度主な事業計画

- *役員会・総会・実践発表会 4月18日
(会場 名古屋市公会堂)
- *第一回トレセン検討会 5月12日
(会場 愛知県支部)
- *高校指導者研究会・メンバー連絡会 5月27日 (会場 愛知県支部)

*高校トレセン 7月29日～7月31日
(会場 愛知県青年の家)

*小中トレセン 8月1日・2日
(会場 愛知県青年の家)

*指導者講習会 8月22日・23日
(会場 愛知県青年の家)

*救急法講習会 8月24日・25日
(会場 愛知県支部)

*第二回トレセン検討会 9月5日
(会場 愛知県支部)

*指導者協議会講演会 1月19日
(会場 名古屋市公会堂)

*指導者講習会実践発表会 1月27日
(会場 愛知県支部)

*高校活動発表会 2月3日
(会場 愛知県支部)

*令和五・六年度研究推進委嘱校
 ・半田市立雁宿小学校
 ・岡崎市立六ツ美中部小学校

加盟状況 (令和五年三月三十一日現在)

- 幼稚園・保育園 五十五園
- 小学校 六百三十九校
- 中学校 二百七十四校
- 高等学校 百十八校
- 特別支援学校 十四校
- 《加盟校合計》 一、一〇〇校・園
- 《メンバー総数》 四三三、七八七名

発行 令和五年七月一日
 発行者 愛知県青少年赤十字指導者協議会
 事務局 日本赤十字社愛知県支部
 〒四六二一八五六

名古屋市中区白壁一五〇
 TEL 〇五二一九七一・五九九
 FAX 〇五二一九七一・五九〇